

式目に據る判決例は式目の詳細な分析による規定の解説と其適用された多數の實例の集積による具體的な判決例が數多く紹介され、法制を單なる作られたものとして固形化する事なく社會上の一事實として生きたものとして取扱はれてゐる。これは式目の修正に於いて武家社會制度の變遷による法條修正の事情が説かれる際にも現はれる。然も斯様の觀察が鋭利な分析と豊かな綜合による動かし難い基礎の上に立つ故に其穩健にして正確なる論斷に何の不安をも抱かせない。其態度に多く教へらるゝ物を含んでゐると思はれる。

第三編式目の影響は前篇に於いて觀察した武家社會に根ざす式目の力強き效用が其後の武家社會に及ぼした影響の種々相を採録して前篇の附加として其研究を完からしむるものである。第四篇以下夥しい資料の中に集積、新資料の紹介に對して感謝を表したい。たゞ一の不本意は斯様にまで努力を注がれた式目のテキストが載せられなかつた事である。其涉獵された卅三種の寫本及註釋書に異同があること云はれる。其の總てを披覽する機會の考へ

られない現在學界の爲めにも著者の研究の成果を發表するものは重要な事ではなからうか。これは筆者一個の希望に止まらないであらうと考へる。(菊判本文六〇二頁索引一七頁、定價五、〇〇 岩波書店發行)(藤)

●神宮遷宮記第一卷 神宮司廳編纂

收むるころ建久元年内宮遷宮記以下弘安二年内宮假殿遷宮記までの十部のである。

祭祀がもつ一の特性は古へに従ふことである。殊に神道ではそうである様に見える。惟神の道には神代より傳ふる祭祀の形が伴つてゐる。神の道が永く榮える爲にはこの形も亦永く守られねばならない。ここに古へに於ける祭祀の形に關する記憶を未來永劫に残そうとする要求が起つて種々の記録が作成される。本書に集められたものをそうした性質のもので我が國に於ける神の中の神なる伊勢の皇太神の遷宮に關したものでありいづれも中世以降祠官の私に編するところではあるが先古の典禮を知るべき黄金なる祕記である。昨年第五十八回の式

年選宮ありたるを機さしこの記念の爲にこれを印刷したものであるといふ。これによつて延暦延喜の帳式の及ばざりし仔細の點を明かにし得るに共に神宮尊儀の由來を知り得るであらう。(菊判、七二〇頁、豫約出版、京都表現社發行)(肥後)

● 莊園目錄

八代 國治編

莊園の研究に貴き半生を捧げ、殊に晩年には皇室御領の研究に全力を傾注せられた八代國治博士が、その業の半ばにして學界の痛惜裡に逝かれてよりこゝに早くも七週忌辰を迎へ、追慕の念新たなるを覺える。

故博士と親交あつた井野濂茂雄氏が、故博士の嗣子八代恒治氏と謀り、高柳光壽・廣野三郎兩氏の援助を得て故博士が研究の備忘録とし、座右の索引として自ら編し置かれたる莊園目錄をこゝに上梓せられ先輩、知己に頒たれた。誠に意義深き事であり、又學界を裨益し、後進を啓發する事尠少でない。收むる所のものは、國別による 皇室御領莊園目錄、莊園目錄、及びそれらの莊園目

録索引の三部である。例へそれが單なる備忘録であり、研究半ばに成る未定稿に過ぎないとしても、此の種の目錄の故栗田博士の莊園考中に收められたもの、外に存在しない今日、貴重なる文献であらねばならぬ。蓋し莊園の研究は國史上の一問題、その研究には藉すに多くの時日を以てし、協力を要するものがある。我々は今畏敬すべき故博士の編録せられたる努力の業績により、指示と刺戟を得、これが活用を計つて、其遺志を繼ぐべき責務あるを思ふ。此の意味に於て、本書の上梓せられたるについて關係諸氏に深謝を拂ふと共に、非賣品たるを惜む念切なるものがある。後進の學徒の爲にも實費を以て頒布せらるゝ便を與へられん事を冀望したい。猶本書には故博士の肖像、略歴、著書及論文目錄を收め、温容、業績を追想せしむる好記念物たらしめてゐる。(菊版本文一四六頁、岡版一葉、附録六頁、東京八代恒治氏發行、非賣品)